

*Happy World*

# Happy World -目次-

第一章	不思議な世界	2P～17P
第二章	別れ	19P～39P
第三章	幸せの扉	40P～52P
	あとがき	53P～54P

ある日、不思議な扉を見つけた。  
縦1m、横1mくらいの重そうな銀の扉。  
その扉が現れた場所は、学校の体育館。  
それは、終業式の日だった。

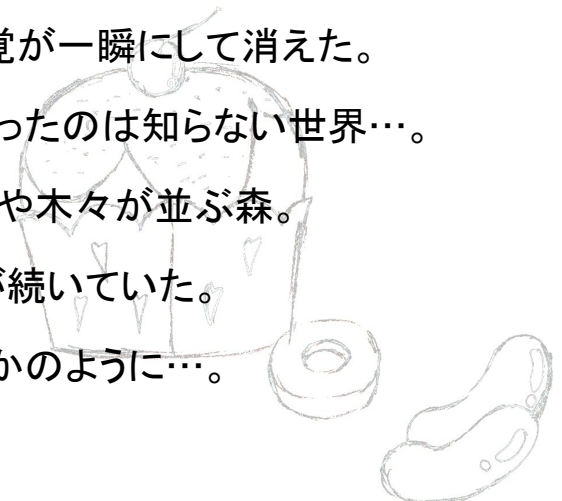
【荒井 梨央】

生徒会役員の1人。  
普通の学校に通う普通の女の子。

私は、突然現れたその扉に手をかけた。  
こんな所にこんな扉あったっけ？  
確認の為に、手をかけたその扉を開く。  
扉の中にあったのは…異空間…。  
漫画のような異空間のぐるぐるした景色。  
他には何も無い。

興味本意に手をその中に入れてみると、異空間の中に身体が吸い込まれてしまった。

急速に落ちていく身体。  
怖くて目を閉じると、落ちていく感覚が一瞬にして消えた。  
恐る恐る閉じた目を開けると、瞳に写ったのは知らない世界…。  
辿り着いたのは、不思議な花や木々が並ぶ森。  
私が立ってる先には道が続いていた。  
まるで…私を招き入れるかのように…。



その道に沿って進んだ。

少しして森の奥から明るい光が差し込んでくるのが見えた。

迷子の子供のようにその光に向かって走り出す。

森を抜けると、そこには沢山の人…。

「えっ？」

1人の男性が近付いて来る。

両手には白いボールのような物を持っている。

「お前は誰だ!! アルコニア王国の者ではないな!？」

男はそう言い、ボールのような物を私に向かって投げた。

私は頭を抱える体勢になり、しゃがむ。

パアァン！という音が私の周囲を包んだ。

そっと目を開け、音のした方を見ると、ボールのような物を投げた男は倒れていた。

そして、私の前には別人の人が…。

「大丈夫ですか？」

私に手を差し伸べたその人は女性。

小さい頃によく読んでいたおとぎ話に出てくる主人公に良く似ている女性…。

「フェアリー姫？」

「私の事を知っているんですね」

大きな瞳、白い肌、通った鼻筋、綺麗な黄金色の髪。

それは、本に出てくるフェアリー・ミラ姫とそっくり…。

